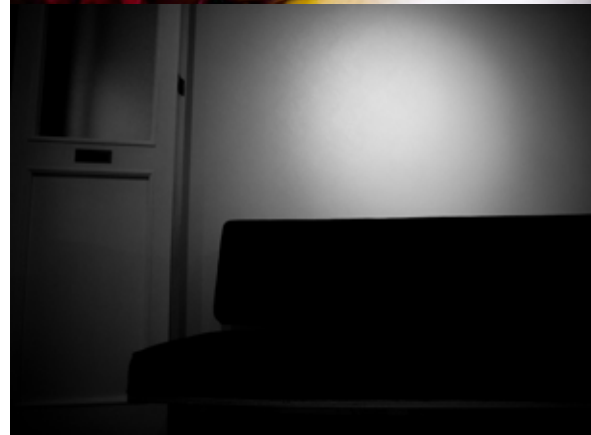


BeKindly



vol. 2

Index

P2

About / Student's Voice

P3-4

日本サーフアカデミー高等部

P5

小島真由美

P6

黒沢一樹

P7-8

総合学園ヒューマンアカデミー高等部

P9

大山康太郎

P10

Reviews

発行・企画・編集・制作

特定非営利活動法人 Seeds Of Species
www.sos-japan.org

協力

学校法人山口精華学園 精華学園高等学校
seikagakuen.ac.jp

About Sea-kindly

「Sea-kindly」とは「荒波を容易に帆走出来る」という意味を持っています。

様々な人の言葉を通じて荒波を乗り越えていく為の「きっかけ」や「発見」に繋がるものを感じ取ってもらえたらと考えています。

フリーペーパー「SK」では、一緒に紙面作りを行ってくれる学生を募集しています。

特集記事や、インタビュー、体験レポートなどを始めとした各種レポート記事、ジャンルを問わず自分が読者に勧めたいと思う音楽や映画、本などのレビュー、得意料理のレシピなど、あなたが面白いと感じ、多くの人に伝えたいと思う企画であればその内容は自由です。

一緒に「SK」を作っていきましょう。

記事の企画、提案はこちらまで。

sk@sos-japan.org

Student's Voice

越智由紀さん 精華学園高等学校 3年

今はバイトと学生を両立していて大変だけど、先生たちもみんなも暖かくて助かっています。仕事はインテリア雑貨の販売・接客を約1年続けていてデータ処理など責任ある仕事を任せてもらったり、やりがいのある仕事です。接客業はいろいろなことがあるけれど、お客様から「ありがとう」と笑顔で言ってもらえるとすごく嬉しくてまたがんばろうというパワーを日々もらっています。

仲の良い友達が卒業してさみしいけど、職場も学校も私を成長させてくれる場所なので後少し先生たちに甘えてがんばります。



日本サーフアカデミー高等部

IOC(世界オリンピック機構)に加盟するISA(世界サーフィン連盟)の国際サーフィンカリキュラムをはじめ、国内外のトッププロから直接指導をうけながら高等学校卒業の資格を得ることが出来るという、神奈川県小田原市にある「日本サーフアカデミー高等部」を紹介します。

サーフィンを通して切磋琢磨し自然を知り豊かな人間に育ってほしい

「サーフは個人で行うスポーツだからこそ一人ひとりが自立し尊重しあい協力するということが必要になってくるのです。」

日本サーフアカデミー高等部の池谷真一先生にお話を聞かせていただきました。

「サーフィンというのは意外とルールが厳しいのです。やはり自然を相手とするスポーツなのでしっかりとしたルールが無いと危険ですし、何かあったときにはお互いに助け合わなければならないのです。その為にも安全に気をつけ、危機管理能力というもも持たなければいけないのです。」

サーフィンを通して得られる自然や仲間との交流。そこで培った知識や体験は、自分を知ること、人を知ること、自然を知ることへと

繋がり、「調和する」心を育む土壌になるのかもしれません。

「海に行けば自然と友達が出来ますし、先輩も後輩も出来ます。ですが、海に入れば年齢性別に関係なく誰もが平等なのです。そういったなかで様々な人々とコミュニケーションを取っていくことで、社会性や常識といったことを学ぶことも出来るのです。」

日本サーフアカデミー高等部では、国内外のトッププロから本格的な直接指導を受け、希望すれば海外研修やサーフィン業界の企業研修を受けることも出来るが、日本サーフアカデミー高等部の理念である「笑顔と自然の生涯学習」という言葉が表す通り、生徒一人ひとりがサーフィンという在り方を通して生涯にわたって成長生きていく糧を得ること

で「思いやり」を持った人間に育ってほしいというのが根幹にある。

「もちろん日本から世界で活躍するプロサーファーがもっとたくさん出てきてくれると嬉しいですが、それだけではなくより多くの若い人にサーフィンの楽しさを知ってもらい、サーフィンを通じて様々なことを学んでもらいたいと思っています。サーフィンを通して学べることは本当にたくさんあるのです。」

通信制高校サポート校
日本サーフアカデミー高等部

〒256-0816神奈川県小田原市酒匂3-7-15
TEL 0465-43-6427 FAX 0465-43-6428

URL <http://www.nsa-hs.net>
携帯サイト <http://www.nsa-hs.net/mobile>

真木蔵人さんから 全国の中・高生へのメッセージ

“SKY IS A LIMIT”

俳優・RAPPER・ミュージックビデオ監督・サーファーと様々な顔を持ち活躍する真木蔵人さんも、「生きる目的を探す為」にサーフィンを始め、10代の頃は毎日ビーチに通っていたという日常の中で、「友情・希望・目標・達成感」を得ることが出来たとお話ししてくれました。

当時の真木さんが抱いていた夢や目標、そして今現在真木さんの抱いている夢や目標は?そのように訪ねると「今もまだ夢と目標の途中です」と答えてくださった真木さんは教育にも強い関心を持ち、熱い想いを抱いています。

日本サーフアカデミー高等部で真木さんがご自身の体験や知識をもとに授業を行う日もそう遠くはないかもしれません。

真木蔵人 プロフィール

15歳の時NHK大河ドラマ『武田信玄』で俳優デビュー。『あの夏、いちばん静かな海』『BROTHER』などの北野武監督作品や、『傷だらけの天使』『亡国のイージス』をはじめとする坂本順治監督作品など多数映画に出演。その独特な存在感で各方面から高い評価を受け、映画俳優としての地位を確立する。その一方でサーファー(特にロングボード)としても国内外で活躍し、俳優・サーファーとして幅広い層からの支持を得る。1995年には全日本ロングボードの部で優勝し、ロングボード日本代表としてISA世界選手権に出場し見事5位という好成績を残す。また、2006年より再びコンテストへの出場を積極的にを行い、各大会で結果を残しASPジャパンが発表したジャパンナショナルリーグの公式ランキングでは世界9位にランクインしている。俳優・サーファーとして活躍するだけにとどまらず音楽活動、映像制作にもその多彩な才能を発揮。多角的な顔を持つAKTION/真木蔵人の全てを高次元で乗りこなし多方面でアクションを起こし続ける彼の姿勢こそ若男女問わず数多くの人々が影響を受けている。



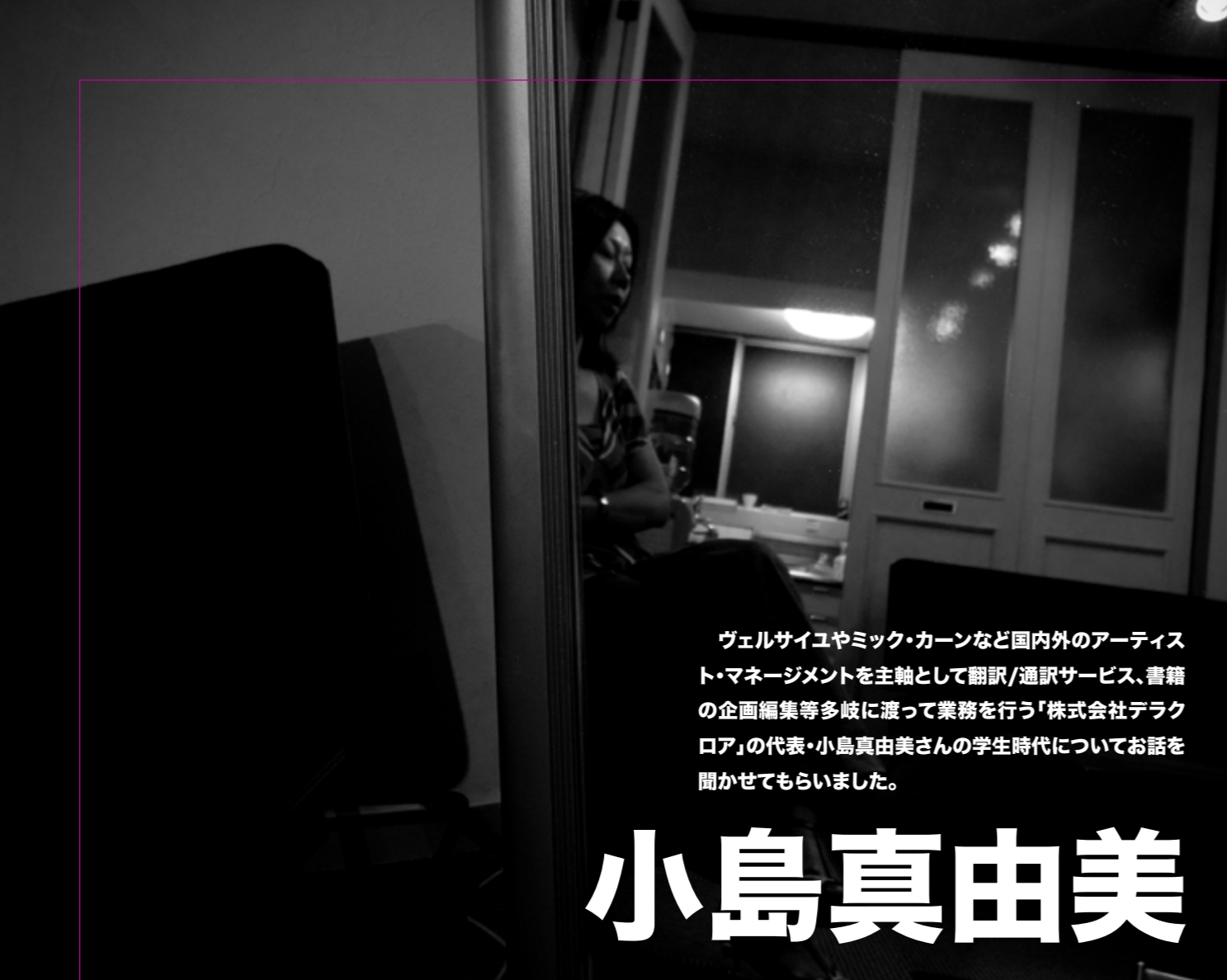
日本サーフアカデミー高等部に届いている 生徒への応援メッセージ

“Love life and your surfing!!”

__ジョエル・パーキンソン(ASPプロサーファー)

“皆さんへ、サーフィンから生まれる才能を見つけてください”

__奥山ユミ(FINEモデル)



ヴェルサイユやミック・カーンなど国内外のアーティスト・マネージメントを主軸として翻訳/通訳サービス、書籍の企画編集等多岐に渡って業務を行う「株式会社テラクロア」の代表・小島真由美さんの学生時代についてお話を聞かせてもらいました。

小島真由美

「今の仕事に携わるきっかけというのは、小学生にまで遡るんです。スージー・クアトロというミュージシャンの大ファンになってから洋楽が大好きになったんですね。それで、来日するミュージシャンの横には必ず通訳の人が付いているでしょ？そういう人になりたかった。憧れです。子供心にミュージシャンに会える、近くにイれるっていうね。」

小島さんは音楽に関わる仕事がしたいという想いを保ち続けたまま中・高・短大へと進んでいった。そんななかで自分の想いを叶える為にどんなことをしていたのだろうか。「音楽の仕事にどういったものがあるのか全然知らなかったんです。でも、ラジオや雑誌から得たアーティストの名前や曲、それをまとめて自分なりの資料を作ったり、自分なりに買ったレコードのレコード評を書いたりし

てましたね。本当に音楽が好きで、自分の意志でやりたいことをやっていたんです。評を書くにも上手い下手ではなくて書きたいから書いてました。後になってそれを見返すと、その当時の自分の想いの強さが力になりますよね。」

そして実際に音楽の仕事に携わるようになったが、憧れの世界の現実の現場は辛いこともたくさんあったという。

「それでも100あるうちの99が辛いことでも残った1の達成感ですべて吹き飛んでしまう。」

「私はプロフェッショナルではないんです。やりたいことしかやってこなかったから。そのためには、自分がやりたいと思うこと、会いたいと思う人に近づいていけば良いんです。自分から自分のやりたいことに飛び込んでしま

うんです。負けず嫌いでいうのもあると思いますが。それは昔いじめられていた、というのもあるんでしょうね。その悔しさっていうのはありますよね。いじめっ子に対して、負けてたまるか、見返してやるっていう想いは常にありましたから。今でもまだありますよ。でも、どう見返すのかっていうのはわかりませんけど(笑)。だから独りであるのが平気なのかもしれない。群れる必要はないですからね。」

Delacroix (株式会社テラクロア)
http://delacroix-tokyo.com

VERSAILLES(ヴェルサイユ)
http://versailles.syncl.jp

Mick Karn
http://www.mickkarn.net

黒沢一樹

いじめ、虐待、裏切り・・・と辛い時期を超え、中学卒業と同時に社会に出て様々な職種を経験。

今は自身の経験をもとに一人でも多くの人に希望を、夢を持って前向きに生きてもらいたいという想いでNPO法人若者就職支援協会での活動や講演、執筆などの活動を行っている黒沢一樹さんが伝えたいことは？



「悪いことをいろいろとやって、人の不幸を糧にしていたところもあって、それに対して何かお返しをしていかなきゃいけない、っていう想いがずっとあったんです。自分には何が出来るんだろう、何をすべきだろう、とずっと考えていて、そこで思いついたのがNPOだったんですね。」

これまでに経験してきた様々なこと、それを聞けば人を信用出来なくなっていたとしても、社会的に道を踏み外していたとしてもおかしくはない。黒沢さんはなぜそう思うようになったのだろうか。

「辛いことやしんどいこともありましたけれど、とにかく生きていかなきゃいけない。自分も食わなければいけないし、兄妹も食わせていかなきゃいけない。その為にはお金が必

要でしたから、とにかく働かしかない。他のことを考える余裕はなかったんです。それが良いか悪いかは別として、それがあったから道を踏み外さないで済んだのかもしれない。そして、その時その時で良い人に出会えて来たんですね。もう無理だろ、って思ったときにきっかけを与えてくれた先輩や友人、妻との出会いや助けていたのがあったんですね。20歳を超える頃には、40社を超える会社に就きました。その中でも特に、飲食業は長かったです。飲食業って『ありがとう』がダイレクトに伝わりやすい職種だと思うんです。ありがとう、おいしかった、というお客さんの言葉と笑顔があつてなかなか離れられなかった。

笑顔って麻薬みたいなものですから。人を喜ばすことが出来る。笑顔がみれる。それがもう幸せで。快感なんです。それが根本にあったから、どんな悪いことをしても『なんか違うぞ』

って想いをもち続けられたんだと思います。」

「人との縁というか、出会ってしまったというか、そういうのはあると思うんです。苦手だな、嫌いだな、って思う相手でも自分の力になってくれる人っていうのはいるんですよ。人との出会いの大切さ、それは伝えたいことですね。それが今の活動の基本にもなっていると思います。」

「最後に一言。周囲に違和感を感じたり、進路で悩んでいたり、また、相談できる人がいない場合には、私に連絡をください。何かのきっかけになるはずです。」

特定非営利活動法人若者就職支援協会
http://www.syusyokushien.com

黒沢一樹ブログ「学歴なんかふっ飛ばせ」
http://blog.livedoor.jp/gakureki

総合学園 ヒューマンアカデミー 高等部



パフォーミングアーツ高等学院



モードスタイリング高等学院

「高校卒業資格」と「専門学校卒業資格」を併せて取得出来る総合学園ヒューマンアカデミー高等部。渋谷校「パフォーミングアーツ高等学院」と原宿校「モードスタイリング高等学院」の授業にお邪魔してきました。

まずは渋谷校「パフォーミングアーツ高等学院」の「表現演習」の授業を見学。教室に入って最初に感じたのは生徒と先生、生徒同

士の仲の良さ。腕立てふせでの発声練習、ストレッチなどの準備運動から始まり、台本を持っての演技の練習。さすが、みんな堂々と一所懸命に割り振られた役をやっている。

笑いの絶えないなかでも、演技の時には誰もが真剣な顔で自分の役に打ち込んでいる。同じ場面で配役を変えての練習など、それぞれの個性が出ていてとても面白い。

生徒も先生も和気あいあいと楽しみながらも真剣に授業を行っているのがなによりも印象深く、良い授業を見せて頂きました。

総合学園ヒューマンアカデミー高等部 渋谷校
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町13-15
Tel 0120-297-428
<http://www.hahs.athuman.com>

次にお邪魔させてもらったのは原宿校の「モードスタイリング高等学院」。当たり前ではあるけれど、雰囲気は全然違う。でも、こちらもみんな楽しそう。この日はスカートを作っていました。

「先生〜!」「これどうするの!?!」あちらこちらから声が飛ぶ。先生、大人気。見せあって、教えあってと随分賑やか。楽しみながらも作

りが出来ているのが好印象。自由闊達でありながらもみんな真剣。完成品が見られないのは残念でしたが、きっとそれぞれに面白いものを見せてくれるんだろうなあ、と。

2校2コース見せてもらって、共通しているのはみんな楽しそうに授業をうけているところ。賑やかだけれどみんな真剣。こういう環境で得られるものはとても大きく、意義のある

ものだと感じました。

今回は各高等学院から一人ずつに簡単なインタビューを行ったので、是非そちらにも目を通してください。

総合学園ヒューマンアカデミー高等部 原宿校
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-25-14
神宮前メディアスクエアビルB2階
Tel 0800-888-8019
<http://www.hahs.athuman.com>



金林まりあさん
パフォーミングアーツ高等学院/精華学園高校在籍

「将来、歌や演技やダンスの仕事がやりたいと思っていて、ここだと高校の勉強もしながら専門的なことも学べるんだってことを知って、すぐに問い合わせしてみました。何度か体験授業を受けさせてもらって、先生のお話がすごい勉強になったのでもっと学びたいと思ったのと、早く

歌や演技、ダンスの勉強をしたくてすぐに決めました。最初は周りの人についていけるかとかいろんな不安があったんですけど、友達とも刺激しあいながら教えあったり、先生もいつも勉強になる授業をしてくれるので、すごく楽しく充実しています。」



美村海帆さん
モードスタイリング高等学院/精華学園高校在籍

「外国のスタイリストさん特集していたテレビ番組があって、トラウマとかを抱えている女性にスタイリングをすることでそれを克服する手助けをするという内容で、自分も誰かを変えてあげたい、という気持ちがかもとあったので、そこでやりたいことが見つかったんです。それで、前

の学校を1年だけががんばって通ってここに転入しました。今は毎日が過ぎるのがとても早く、自分の性格も随分明るくなったと思います。卒業後は自分の好きなブランドで働いて、そこでスキルを身につけるところから始めていきたいと思っています。」

Wilco & Kurt Vonnegut

Yankee Hotel Foxtrot (2002)

何ものにも見放され、為す術無く、残るのはジレンマと頭痛だけ。それでも滑稽さと笑いは生まれる。ありきたりの、当たり前ものから生まれた歌が何よりも革新的だったりする。歌が人を救うこともある。聴く人を救うのか、歌う人を救うのかはわからないけれど。笑いもまた然り。

どちらにせよ、歌も笑いも素晴らしい。

『その昔、神は音だった。』

それだけで十分じゃないだろうか？

あれやこれや言うよりも、聴いた方が早いに決まっている。

眉間に皺を寄せているからといって悩んでいるとは限らない。笑いを堪えているだけなのかもしれない。そう考えると他人のしかめっ面が面白く見えてこないだろうか？自分の顔を鏡で見てみると良い。きっと笑えてくるはずだ。

不甲斐ない、どこにでもいそうな男たちの歌と82歳になる年寄りのことば。

「われわれはここ地球でばかばかしいことばかりしている。だれにも違うとは言わせない。」 —カート・ヴォネガット



I Am Trying to Break Your Heart : A Film About Wilco (2002)



CD
Yankee Hotel Foxtrot / Wilco
Warner Music Japan

DVD
I Am Trying to Break Your Heart / Wilco
Plexifilm

A Man Without a Country (2005)



『国のない男』 / カート・ヴォネガット
日本放送出版協会



Koutaro Ooyama! aka. MON

1979年生まれ。奈良県出身。
京都府立芸術大学、美術学部版画専攻卒業。
2001年、山尾光平(BAKIBAKI)と共にライヴペ
インティングデュオ「DOPPEL」を結成。
2009年、レーベル「VVV」を設立。DJ名義
「YABICARASHI」で2枚の12インチをリレ
ース。
2010年、個展「NEXTEX」では、極彩色/サイ
ンとLEDライトの組み合わせにより、前代未聞
のオナチュルリズム「空間を展開するに至る。
ペインターとして、これ迄はDOPPEL/ソロ名
義共に数々のミュージシャンや企業とのコラボ
レーションを果たし、アメリカ/NIKE本社にて
壁画、インド/アジア最大規模の学園祭「Mood
Indigo」にて壁画を提供。
また、世界規模のヒップホップフェスティバル「Burn
ingman」にてライヴペインティングを演ずる
等、多岐に渡り活動中。原始的咆哮ともいえる
紋様を武器に、アンダーグラウンドからオーバ
ーグラウンドまで、自由に行き来するスタイルで
話題を呼んでいる。

www.koutarooyama.com



sk